

川口駅周辺まちづくりビジョン策定に係る経緯

<p>①川口駅周辺市街地整備構想(昭和58年7月)に基づいた事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●川口駅周辺の整備について、市民生活の核としてあるべき土地利用の姿、市街地の利便性・安全性の向上のため必要な都市施設の配置、都市活性化の手段等についての指針として、昭和58年7月に、川口駅周辺市街地整備構想を策定・公表 ●この構想に基づき、 <ol style="list-style-type: none"> ①東口における再開発による大型商業施設の整備や既存商店街の改善 ②西口における公園を含む大規模な広場やリア等文化施設の整備、公園に接する地区における再開発等による建物の不燃化 ③東口と西口を結ぶ東西連絡避難路としての歩行者デッキの整備、駅周辺の交通渋滞の解消に向けた東口と西口を環状に結ぶ道路(リング道路)の整備 など、様々な事業が行われ、現在の川口市の表玄関である中心市街地としての礎が築かれた ●一方で、東口における避難ルートが未整備であることや、構想の公表から約40年を経て、社会情勢が変化しており、利便性・安全性等の観点から様々な解決すべき課題が存在
<p>②中距離電車の停車を含めた駅整備に係る検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●川口駅周辺は、都心へのアクセスの良さ等からマンションの建設が進み、人口が集積することで、同駅の一日当たりの乗降客数は約16万8千人(令和元年度)と、埼玉県下有数の規模を有しており、今後も、複数の大規模なマンション開発が予定されており、更なる人口集積やそれに伴う駅の利用者数の増加が見込まれている ●一方、川口駅の鉄道輸送力は京浜東北線一線であり、通勤・通学時の激しい混雑に加え、列車の遅延・運休時には駅舎内や駅前広場等に利用者があふれ混雑をきたしている状況である ●こうした状況を踏まえて、中距離電車の停車を含めた駅整備について検討を進めてきたところであり、駅整備については、駅周辺の開発と一体的に検討を進める必要があることから、まずは、学識者や関係主体の勉強会による多角的な検討を進めることとなった
<p>③社会情勢の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスの感染拡大を経た社会の変化、災害の頻発化・激甚化、SDGsの対応への機運の高まり、IoTやMaaS等の新たな技術の進展など、社会情勢の変化に対応したまちづくりが必要

現状の課題への対応、まちのポテンシャルの活用及び社会情勢の変化への対応の観点から、川口駅周辺の整備に係る新たなビジョンを策定することが必要

①川口駅周辺市街地整備構想(昭和58年7月)に基づいた事業の推進

②中距離電車の停車を含めた駅整備に係る検討

公共的機能の充実など川口駅周辺の地区の特長が確立された一方で、様々な解決すべき課題も存在

③社会情勢の変化

学識者や関係主体による検討会を立ち上げ川口駅周辺まちづくりビジョンを策定